



ほっとするね  
緑の府中

# 指導室だより

第 81 号

編集・発行 府中市教育委員会教育部指導室  
〒183-8703 府中市宮西町2-24  
電話 042-335-4063

夏季休業日は、教員にとって資質の向上を図る貴重な研修の機会である。府中市教育委員会では、五市合同専門研修をはじめとする夏季研修会を32講座実施した。各研修会場には定員いっぱい先生たちが出席し、一生懸命に研修に励み、指導力の向上を目指して努力をしていた。

この研修での成果を二学期からの授業や教育活動にぜひ生かしていただきたい。



ICT研修 7月23日



書写実技研修

7月26・27日



学校教育相談研修 7月27・28日



和太鼓実技研修

7月26・27日



不登校対応研修

7月29日



生活科研修 7月27日



英語活動研修

7月23・26日  
8月2・3・4日



# 教員の資質向上を目指して

## あすに生きる力を育てるために

府中市立府中第六小学校長  
府中市立小中学校教育研究会会長

菊井 道子

### 一 はじめに

府中市立小中学校教育研究会は昭和36年に発足し、会の規約は昭和36年2月に制定されている。会則は第二一条までである。

はじめに、本会の規約を通して、府教研の役割についての共通理解を図ってみたい。以下は、規約の一部である。

第一条 本会は、府中市立小中学校教育研究会(略称府教研)と称する。

第三条 本会は、会員相互の協調のもとに、小中学校の教育に関する調査、研究を行い府中市教育の振興に寄与することを目的とする。

第四条 本会は、前条の目的を達成するために次の事業を行う。

1. 研究会、講習会、講演会、発表会等の開催
2. 教育資料の作成と機関誌の発行

3. 各学校並びに会員の研究助成

4. そのほか必要な諸事業

第五条 本会は府中市立小中学校の教職員で組織する。

第一条 総会は最高の決議機関で、各学校の三分の一以上の会員をもって成立し、その議決は出席会員の過半数をもって決める。年一回以上ひらき、規約改正、予算決算、活動方針、役員承継、研究発表及び講演会などを行う。

第一六条 本会の経費は市の委託金による。

細則  
第四条 研究日は原則として各月の第二水曜日とする。

この規約が、私たちの毎月の府教研活動を保証しているのがある。今年度改めて、会員の定義を確認し、総会資料には、会員総数931名を明記した。その会員一人一人がこの規約の内

容をしっかり理解し、会員であることに、自覚と責任をもつことである。

### 二 「府教研」の役割

「府教研」には大きく二つの役割がある。一つは研究活動であり、もう一つが文化祭行事である。

まず、研究活動である。研究活動は、まさに教師が教師として力を発揮すべく教師力・授業力アップのための場である。指導力向上を目指し、教材研究や授業研究を通して意見交換をすることは、次の日に子供たちの前でさらによい授業を展開・提供する機会となる。

29部会は、同じ教科・領域を研究する同士が集まり、熱心に討議することは専門職であるからこそ成立し、必要不可欠な場である。

また、文化祭行事については、6つの行事を計画実施している。児童・生徒の発達段階を考慮し、学校教育活動の観点から題材を吟味し、選定する作業はプロ集団の仕事である。

各学校から運営委員が選出され実行委員会形式で運営されている。参加した子供たちの感想からは情操教育の成果が届いている。

特にこの事業は、府中市の文化施設の提供を受ける中で実施していることから、児童・生徒に恵まれた環境で生活していることに気付かせ、「府中っ子」(ふるさと府中で活きる子どもを育てよう)としての自覚を持たせる機会として設定することができる。

最後に、府中市の「学校教育プラン21」と府教研の関連につ

いて触れてみたい。「学校教育プラン21」の基本理念は、「誇りをもてるふるさと府中を創り、世界に活躍する府中っ子を育てる」とある。

この中で、「これからの学校は、個性重視の意見やそのねらいを達成するために、また、学校の自主性・主体性を確立するため、各学校において特色のある教育を創造することが大切である。さらに、生涯学習社会の到来とともに、地域やふるさと意識を育てる、地域に根ざした学校を構築することが必要になります。そして、これらの課題の解決と学校教育の使命を果たすためには、「教育は人なり」といわれるように、教員の意識改革と資質の向上が鍵になります。教員は、子どもたちと保護者、そして地域の人々と運命共同体であることを認識して、それぞれの学校の教育に携わることが重要です。」と述べられている。

これらの実現に向けて、「府教研」は、研究活動・文化祭行事という学ぶ場を保障された会であること全員で確認したい。また、このように研究・研修に恵まれた環境を有効活用し、教員としての意識改革、資質の向上を目指し、日々研さんしていく教職員の集団でありたいと強く願っている。

### 三 「あすに生きる力を育てるために」は「府中市教育の振興に寄与すること」

最後に、府中市の「学校教育プラン21」と府教研の関連について触れてみたい。「学校教育プラン21」の基本理念は、「誇りをもてるふるさと府中を創り、世界に活躍する府中っ子を育てる」とある。



わが校の特色ある教育 NO. 46

# ふれあいある学校づくり ～地域との連携と校内の連携で 子供を支える～

府中市立府中第九小学校

主任教諭 青嶋 美保

## 1 校内研究 『ことば』力を高める 話す活動を通じた指導の工夫

本校は昨年度、「書く活動」を中心に研究発表を行った。本年度は、コミュニケーション能力と言語力、表現力の育成を目指す「話す活動」を中心として研究を進めている。

6月には、第一回目の研究授業が「ふたば学級」で行われた。言葉遊びから授業がスタートし、ソーシャルスキルトレーニング

を取り入れた友達とのかわりを深める活動など、会話に必要な要素をゲームを通して学習した。ただ形式的に話すのではなく、自分の思いをうまく伝えてわかってもらうこと、さらに相手を深く知ることがとても心地よいということに気付き、なかなか展開できなかった。ふたば学級の研究授業は、今後行われる各学年での授業にも生かされるものとなった。



授業の様子

## 2「地域ふれあい九小まつり」 九小を心のふるさとにしよう

国語科を中心とした研究だが、専科でも研究につながるよう連携を図っている。音や声、作品を通して自分の思いを表現したり相手の思いに共感したりすることは仲間としての意識を高め、さらには良い表現活動につながっていく。

学校という社会の中で集団としての力の相乗効果を最大限引き出し、臆することなく表現を楽しめる児童の育成を学校全体で目指していきたいと思っている。

「地域ふれあい九小まつり」は、昭和53年から行われ、第33回目の今年は、7月17日（土）に実施された。例年、夏休みの直前に行われている。このお祭りは、九小PTAが主催し、共催として、青少対第一地区委員会や隣の町会、商店会、商店、婦人会、スポーツ関連サークル、学校、放課後子供教室などが参加し、府中刑務所の協力もいただいて実施している。特に学校関係では、府中第一中学校のボラ



九小バンド

ンティア部がソーラン節を踊り、都立府中高等学校の漫画研究会がフェイスペインティング、農工大の学生さんが、エコレンジャーに扮して環境問題をアピールなど、地域とつながる大々的なお祭りとなっている。職員のお店やバンドも参加し、今年も児童からリクエストがあったアニメ「メジャー」のテーマソングを演奏し、ポーカーに児童が参加した。

今年も耐震化工事のため狭い校庭であったが、多くの方のご協力を得て大変身した縁日さながらの校庭に浴衣姿の子供たちが繰り出し、暑さを忘れるひとときとなった。

## 3 特別支援教育について

本校では、一人一人の児童を、全職員で見守り、協力して組織的に対応することを重視している。年度初めの校内委員会では、「気にかかるといふ視点から担任・専科等全職員が捉えた児童の姿を出し合い、集約し、子供の姿を把握するようにしている。その後は必要に応じて、迅速に校内委員会を開催する。ここで強い味方となるのが、「ふたば」（知的障害学級）と「まなび」（情緒障害通級指導学級）の存在だ。この二つを兼ね備えた学校は府中市内で本校だけ。日常的にその利点を生かしている。専門的な立場からの意見で、校内委員会の内容も具体的に、現実性のあるものとなり、個に応じた対応が深まる。また、校内だけにとどまらず外部との連携も積極的に進め、児童に、より多くの支援体制がとれるように図っている。



わが校の特色ある教育 NO.47

# 生き生きと取り組む たて割り活動

府中市立府中第十小学校  
主幹教諭 安倍 威

たて割り活動や異学年交流はどの学校でもクラブや集団登校、集団下校で高学年の児童が中心となって活発に行われている活動だと思う。

府中第十小学校ではそのような活動以外に、十数年前から行われている独特なたて割り活動がある。そのことについて紹介したい。

## 〈全校で楽しむ 作って遊ぶ〉

お店やさんのような要領で各教室でいろいろな手作り工作を



全校で楽しむ「作って遊ぶ」

である。(ビー玉転がし、船、ブーメラン、ビックリ箱、染め紙、ミニプローチ等15種類もある。)

当日は学校公開となっており、中には子供の活動の様子を見に来た保護者も一緒に作って遊んでいる光景や校庭で子供と一緒に遊んでいる保護者も見受けられる。普段の学校生活とはひと味違う様子である。昨年度は1500人近くの親子が学校に集っていた。

## 〈地区班を活用した 落ち葉掃き〉

地区班といえは本来災害時の登下校をするときに一緒に活動する集団である。もちろん本校でも各学期始めには集団登校を行っている。しかし地区班活動はそれだけではない。

本校では秋の落ち葉がたくさん落ちる頃を見計らって約一ヵ月間校庭の落ち葉掃きを行っている。掃除の時間を活用しており、各地区の班長が中心となり、各地区の班長が中心となって三年生から六年生が活動している。校庭を3か所に分けて、地区班ごとにローテーションし

ている。子供たちは竹ぼうきや熊手を担当する子や、塵取りを担当する子、落ち葉を所定の場所まで捨てに行く子などに分かれて活動している。

地区班で行動するとメンバーがお互いに顔見知りで、五・六年生もいいところを見せようと、教室での表情とは違って、一生懸命にお兄さん、お姉さんとなって下級生の児童の面倒を見ながら取り組んでいる様子が見がえる。下級生の児童も高学年の児童の言うことをきいて懸命になって落ち葉を集めている。

本校の校長もリヤカーを引っ張って、子供たちが集めた落ち葉をリヤカーに乗せて、捨てるに行くことがある。

落ち葉掃きの他にも地区班では夏休みにも各地区の代表の保護者が中心となって花火大会やスイカ割りなどの行事も行っている。

本校には、現在789名の児童が在籍しており、たて割り活動などの大きな活動は、校庭や教室などの限られた場所限定して一同に遊ぶことは定期的にはな

かなかできない面がある。そこで上記のようなたて割り活動が考えだされた。

授業時間の確保に伴う行事の精選が進められ、たて割り活動も縮小傾向にある。また、親子で取り組む学校行事も少なくなってきた。今後、少しでもこのような活動を残していくように行事を見直していく必要がある。

また、今年度9月から校舎改築の工事が予定されている。それに伴い校庭が狭くなり、子供たちの遊びや、体育の授業が制限される。

そこで、今後たて割り活動をより一層工夫し、充実させていく必要がある。



地区班を活用した落ち葉掃き



## 平成22年度 校内研究・研修主題等一覧

学 校 名	研究・研修主題、内容等	教科・領域等	研究協力校等
府中第一小	思考力を育て、互いに考えを伝え合う子の育成	理科・生活科	研究協力校（1年次）
府中第二小	自信をもってチャレンジしていく子どもの育成 －体験し学び合う理科・生活科の指導の工夫－	理科・生活科	研究協力校（1年次）
府中第三小	自ら学び進んで考える子の育成	算数科	研究協力校（1年次）
府中第四小	すすんで伝え合う児童の育成 －言葉に興味をもつ活動の工夫－	国語科	研究推進校
府中第五小	考えを深め表現できる子の育成 －算数科における書く力の活用とあいの時間の充実を通して－	算数科	研究推進校
府中第六小	自ら学べる児童の育成 －子どもが楽しく活動できる体育科指導法－	体育科	研究推進校
府中第七小	考えを深めるための基礎・基本の充実 －言語活動を生かして－	全教科・領域	研究協力校（2年次）
府中第八小	伝え合う力を育てる指導の工夫 －言語活動の充実－	国語科	
府中第九小	「ことば」力を高める －話す活動を通じた指導の工夫－	国語科	研究推進校
府中第十小	自ら考え、表現する児童の育成 －思考力・表現力を育てる指導法の工夫－	算数科	研究協力校（2年次）
武蔵台小	英語に親しみ、英語を楽しむ Let's have fun and learn English! 世界の仲間と手をつなごう Joining hands in friendship	外国語活動 総合的な学習の時間	研究推進校
住吉小	心豊かに学び合える子 －算数科の指導を通して－	算数科	研究推進校
新町小	自ら考え表現することのできる児童の育成	理科・生活科	研究協力校（1年次）
本宿小	愉しく活動し、進んで学ぶ児童の育成 －子どもの見取りを生かした学習環境づくりを通して－	理科・生活科	研究推進校
白糸台小	主体的に取り組む児童の育成 －書くことを通して－	国語科	研究協力校（2年次）
矢崎小	自ら学び考える子供の育成 －活用力の育成を通して－	算数科	研究協力校（2年次）
若松小	自ら考え、楽しく学ぶ子供の育成 －算数科を通して－	算数科	研究協力校（2年次）
小柳小	かかわり合い、伝え合い、わかり合える子 －話す・聞く活動を通して、互いに尊重し合う子どもを育てる－	主に国語科	研究協力校（2年次）
南白糸台小	人とのかかわりを大切にした道徳教育	道徳	研究協力校（1年次）
四谷小	人とのかかわりを通して、自分の思いを伝え合う子 ～コミュニケーション力の育成を目指して～	国語科	研究協力校（1年次）
南町小	読もう・調べよう・伝え合おう －読書活動を取り入れた国語科の授業の工夫－	国語科	研究協力校（2年次）
日新小	自ら学ぼうとする力を育てる指導の充実	全教科	研究推進校
府中第一中	確かな学力を身に付け意欲的に学ぶ生徒の育成	全教科・総合的な学習の時間	研究協力校（1年次）
府中第二中	連携を通じた学校力の向上 －伝え合う力を育て「わかる」を「できる」にする授業改善－	全教科	研究推進校
府中第三中	生徒の主体的な学びを高めるための授業づくり	全教科	
府中第四中	ICTを活用した教材開発と全員による授業研究 通常級の生徒 を含む、特別な支援を要する生徒への理解と対応について	全教科・領域 特別支援教育	
府中第五中	目標を成果につなげさせるための授業改善の推進	全教科	
府中第六中	生徒の現状に基づいた分かる授業の研修 －分かる授業の構成要素－	全教科・領域	
府中第七中	新学習指導要領の実施に向けて －基礎・基本を身に付けさせるための指導方法の工夫と改善－	全教科	
府中第八中	個に応じた指導と授業力を高める実践	全教科	
府中第九中	本校生徒の生活と健康向上を図るための諸課題への 取り組みとその対応	全教科・領域	
府中第十中	1 生徒の学力向上を図るための授業改善 2 新 学習指導要領の理解 3 特別支援教育について	全教科・領域	
浅間中	・中1ギャップ、不登校など生活指導関連の研修 ・コミュニケーション能力の向上	生徒指導の充実と生徒との 関係づくり	

道徳授業地区公開講座

- ◆ 9月11日(土) 府中第九中学校 9時45分～
- ◆ 9月18日(土) 府中第二中学校 13時25分～  
府中第五中学校 9時45分～  
浅間中学校 10時45分～
- ◆ 9月22日(水) 矢崎小学校 13時20分～
- ◆ 9月25日(土) 新町小学校 10時25分～  
府中第一中学校 10時40分～  
府中第七中学校 13時25分～
- ◆ 10月3日(日) 日新小学校 10時30分～
- ◆ 10月6日(水) 府中第二小学校 8時45分～
- ◆ 10月9日(土) 武蔵台小学校 10時30分～  
府中第十中学校 8時40分～
- ◆ 10月16日(土) 府中第六中学校 13時25分～
- ◆ 10月20日(水) 府中第七小学校 13時45分～
- ◆ 10月23日(土) 府中第一小学校 9時30分～  
若松小学校 8時45分～  
府中第八中学校 8時40分～
- ◆ 11月6日(土) 府中第三小学校 8時35分～
- ◆ 11月20日(土) 府中第十小学校 9時30分～

日	曜	研修会・委員会等	会 場	研 修 内 容 等
9	2	木	ICT活用推進委員会	教育センター 全体会、分科会(指導案検討)
9	2	木	中学校社会科副読本編集委員会	教育センター 全体会
9	3	金	体力向上委員会	教育センター 全体会
9	3	金	小学校英語活動推進委員会	教育センター 全体会、分科会
9	6	月	生活指導主任会	教育センター 全体会、小・中分科会
9	6	月	特別支援学級代表者会	教育センター 全体会、分科会
9	7	火	進路指導主任会	教育センター 全体会(研究テーマ検討)
9	10	金	人権教育推進委員会	教育センター 全体会、分科会(指導案検討)
9	10	金	幼稚園教諭研修	教育センター 全体会(講義)、協議
9	13	月	図書館担当者等研修	教育センター ブックトークについて
9	14	火	第2回就学指導協議会	教育センター 全体会
9	30	木	学校図書館推進委員会	教育センター 全体会

- ◆ 12月3日(金) 住吉小学校(高) 13時30分～
  - ◆ 12月7日(火) 住吉小学校(低) 13時30分～
- 注・開始時刻は予定であり、詳細は、各校に問い合わせを。



私が高校生のときである。美術系の学校に通っていた私は、デッサンの授業において基礎・基本の技術を習得しようとする度、何度も静物を描いて練習をしていた。絵画は平面である画面上に立体を表現していくことを求められる場合がある。モチーフを立体的に見せる要素は多くあるが、基本として、平面の画面上に床面をつくりモチーフを立ち上げさせることや量感、まわり込などである。これが多岐にわたる感覚的に行き、技術をものじしよと何度も何度も練習しては試行錯誤を繰り返して日常のすべてがそのことはいっぱいになっていくことを思いだす。

その高校生時代に技術習得で悩んでいたときに、美術の恩師が、「一つのことを習得していきましょう」とするとき、練習していけば右肩上がりですぐ伸びていくものではない。階段状に上がっていくものだ。階段の

あきらめず  
やり続けること

トップのところまで一時的に停滞しても、次のステップに入るときに一気に上がっていくようなものだ。」と励ましを含めて語っておられたことが今でも忘れられない。

絵画の技術習得で壁に当たり、悩み、見通しなど持てず、平行線状態が続く中、ある時周りからの助言や励ましなどのきっかけで、その壁を突き抜けられた時に、今まで見ていたものが違う視点や角度から見られるようになり、今まで悩んでいたことが嘘のように闇や霧の中から一気に晴れ渡り、ステップアップしたことを実体験したことがある。

最近の子供は我慢ができず、物事を投げ出す傾向があるといわれている。何かを習得しようとするとき、階段状のステップの段階で嫌になるのではないだろうか。先が見えない段階のステップで停滞しているときに我々教員がほんの少しの言葉や励ましと道を指し示すことで、次にぐっと階段を踏み上げられるように子供を支援していきたいものである。

(指導主事 大津 嘉則)

学びの窓

ダブルダッチを府中発信スポーツに文化スポーツ部国体準備担当主幹 安齋 勉

皆さんは、ダブルダッチをご存知ですか。実は、平成25年の第68回国民体育大会開催に合わせて、国体をもっと親しんでもらうための行事の一つとして、府中市の郷土の森総合体育館を会場に、ダブルダッチを公開する予定です。それは、ターナー二人が縄2本を回し、その縄間でジャンパーが演技をしたり、早く飛んだり3人集まり、縄2本あれば、いつでもどこでも楽しめるスポーツなのです。でも、まだまだ知る人が少ないので、府中市で行う卓球、軟式野球、サッカーという国体正式競技に混ざって、ダブルダッチが公開されるので、いっそのこと府中市発信のスポーツにしてしまおうと多く市民の皆さんに知ってもらおう機会を探しています。先日、第十小学校の協力を得て六年生に公開授業ができたとき、多くの児童の楽しかったという言葉が聞かれました。簡単にできた楽しさで体育館は喜びで一杯でした。どこかでダブルダッチを行っていたら、ぜひ、友達と参加して、その楽しさを多くの人に伝えていきましょう。